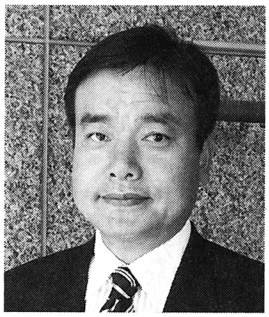
【実践例④：南国市立稲生小学校ＰＴＣＡ】

開かれた学校づくりと地域教育力の再生



高知県南国市立稲生小学校
地域教育協議会長
前田　学浩

稲生小学校（児童数八五名、平成二一年四月現在）は、ＰＴＡに地域を意味するコミュニティの〝Ｃ〟を入れたＰＴＣＡ化により、地域の核としてさらなる開かれた学校づくりと地域教育力の再生を実現することを目標に、地域との連携を推進しています。

Ｃの方々は、開かれた学校づくり推進委員を中心に、公民館長や民生児童委員、農業就労者、スポーツクラブ指導者、昔遊び指導者などで構成されています。

(1) ＰＴＣＡ化へのスタート

私が平成一七年度にＰＴＡ会長を引き

実践のポイント

①平成一七年度より、ＰＴＣＡ化への取り組みを開始しました。まず、四月に会長の引き継ぎの際、ＰＴＣＡ化の希望を校長先生に伝え、六月の「開かれた学校づくり推進委員会」にて了承していただきました。その後、ＰＴＡ広報誌の毎月発行（地域の方に配布）実施と夏まつりをシンボル的に復活させました。さらに、地域の文化祭と学習発表会を同日に開催するよう設定しました。

②平成一八年四月のＰＴＡ総会にて、正式にＰＴＣＡ化への移行が承認されました。二分の一成人式に地域の方が参加し、一〇歳の児童を地域で祝いました。

③平成一九年四月より、週明けの朝礼時に行われる「ラジオ体操」への地域の方の参加が始まりました。「上履きのかかとを踏まない活動」を実施しました。

④平成二〇年度、ＰＴＣＡの役員に地域から三名の方を選出しました。この年、学校支援地域本部事業を受託、ＰＴＣＡの延長として取り組み始めました。

継ぐ際に、前会長と当時の校長先生に「PTCA化を進めたい」と伝えました。二人の反応は、「今でも地域の方は協力してくれているから、それほど必要ないのでは」ということでした。しかし、前会長は、私がその四年前に広報部長をしていたとき、広報誌を近隣の施設に配布して〝PTCA化への布石〟だと言っていたのを覚えてくれていて、その席ではそれ以上の反対はありませんでした。また、校長先生も「やってみましょう」となりました。

地域の方に初めて話したのは、同年六月の第一回「開かれた学校づくり推進委員会」でです。そこで、長崎県のホームページの資料を使って、PTCA化の重要性を説明しました。私の話の後、一人の地域の方が、「君らがそう思うなら、したらいい」と言ってくれました。非常にうれしかったです。地域の方が信頼してくれているということが認識でき、PTCA化の成功を予感しました。

(2) 広報誌の毎月発行と夏まつりの復活

PTCA化を了承していただいたのを機に、広報誌を年三回から、一五回の発行にしました。各学年が二回出すことにより、一二回。残りを会長などが発行。毎月発行により、学校の様子が、地域にタイムリーに伝わるようになりました。

一方、子ども会の組織が弱体化していくなかで、休止していた「夏まつり」を復活させました。二〇年度には「稲生かっぱまつり」として、地域の方も主体的に参加する夏まつりになりました。

地域の方と直接つながるこの二つの活動により、PTCA化への力強いメッセージを地域全体に発信できたと思います。

(3) 「稲生の文化が香る日」の設定

平成一七年度より、一一月の最終日曜日を「稲生の文化が香る日」として、午前中は小学校で「学習発表会」、午後からは、北隣の公民館にて「ふれあい文化祭」が行われます。二〇年度は、九月に二年生が地域の方と一緒に公民館前の田んぼにコスモスとひまわりの種を植え、一一月には満開の花が来場者を迎えました。

(4) 「みんなの稲生を守り隊」を設立

全国的に小学生が被害を受ける事件が続いた平成一七年一二月に、地域安全ボランティアで児童の安全確保をしていく「みんなの稲生を守り隊」を結成しました。グリーンのベストを一〇〇着つくり、希望していただいた方に配布しました。

地域安全ボランティアの方々は、下校時に自宅付近で見守ったり、安全旗を持って先導や声かけをしてくれたり、帰り道を自転車でつき添って家まで見送ってくれたりします。

「わしらは、PTCAのCだから」という言葉を八四歳の方から聞いたとき、達成感を得ることができました。一八年度には、夏用のベストを五〇着つくりました。

(5) 「二分の一成人式」を地域で祝う

従来、四年生が三学期の参観授業で行っていた「二分の一成人式」を、平成一八年度より、地域の方に参加していただき、地域全体で一〇歳のお祝いをする行事にしました。公民館から、プレゼントのバームクーヘンをいただきます。二〇年度からは、三倍、三・五倍、四倍の成人式も同時に行うようにしました。

(6) 「上履きのかかとを踏まない活動」

現在、核家族化が進んでいくなかで、しつけができない家庭が増えてきているのが残念ながら実情であり、学校に過度の負担をかけている一つの要素だと思います。

「上履きのかかとを踏まない活動」は、

平成一八年度末に議題にあがり、年度替わりの際に、各家庭にサイズを確認して購入していただき、一九年度初めに、各自サイズのそろった上履きで「かかとを踏まない活動」を実施しました。

本当に小さなことですが、ＰＴＣＡ組織により、しつけを含め、子どもに「みっともない」という気持ちの意識づけができると、さらなるＰＴＣＡの可能性を感じた活動でした。

(7) 食農体験をサポート「みのりの会」

ＰＴＣＡと連携している団体の一つに、「みのりの会」があります。地区の女性グループで、会員は約三〇名です。「みのりの会」の方々は、学校行事の田植えや稲刈り、タマネギ栽培、芋掘りなど食農体験などをサポートしています。

なかでも、約二〇ｍもあるロング巻き寿司づくりは、一二月の恒例行事です。「みのりの会」の方から、手順や巻き方を教わりながら、廊下いっぱいに並んで挑戦します。ＰＴＣＡを中心とする学校と地域との協働で、学校行事がより地域とのふれあいを大切にしたものになっています。なお、食農体験は地域活性にもつながっています。

(8) ラジオ体操と「朝型社会の復権」

平成一九年度当初より、毎週、週明けに行われる全校朝礼に地域の方にも来てもらって、ラジオ体操を一緒にしています。これは、保健指導をしてもらっている医師から「子どもたちの姿勢が悪くなっている」という意見があったことと、南国市の保健課より、「地域の方に運動習慣をつけてほしい」という話が公民館を通してあったことから、学校側とも相談して始めました。

天候などによってばらつきはありますが、毎回約二〇名の地域の方が参加してくれています。地域の方々は、朝のウォーキングも兼ねて子どもたちと一緒に登校した後、朝礼で校長先生の話を聞き、ラジオ体操に参加します。子どもたちの学校生活を見ることもできますし、同時に健康づくりにつなげようというねらいも満足できています。このように、週初めが参加者の楽しみの時間になりました。

この、週初めに地域の方と一緒にラジオ体操をすることは、当初想像していた以上に、大きな可能性を感じるようになりました。それは、ラジオ体操後に、学校支援地域本部事業の地域教育協議会を二〇年度に三回実施できたからです。まさに「早朝会議」といえます。そして、二一年度は、その早朝会議の後、学校敷地内の環境整備（子どもも休み時間に手伝う）を行うように計画しています。

地域の方が朝から動く姿勢を見せ、「家庭の教育力を麻痺させた原因である夜型社会の浸透を食いとめ、朝型社会を復権させる」。これは、ＰＴＣＡ移行当初、思いもよりませんでしたが、実現可能な大きな目標になりました。

ＰＴＣＡは、これまで眠っていた地域の教育力を目覚めさせ、その教育力を学校に還元しています。さらに地域の人たちの前向きな行動により、学校を核に「地域のつながり」が生まれ、信頼社会の再構築さえもできる有効な手段であると思います。

(9) 「朝型社会の復権」をこれからのテーマに

昨年度より協力を得ている高知大学の生活リズムを研究している教授から、院生を派遣していただき、今年度より「朝型社会の復権」をテーマとして、学校・家庭・地域が連携した本格的な活動を展開できるように、四、五月に計画づくりを行い、その後、力強く推進していきたいと思います。